
夏渡し

dr.harry

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夏渡し

【コード】

N0886BA

【作者名】

dr.harry

【あらすじ】

夏の思い出と少女の切ないキオクをギュッと詰め込みました。

ある作品に付けるはずだった歌詞です。でも計画の路線変更でボツになってしまいました。でも頑張って書いたので見てくれたら嬉しいです。

(前書き)

この作品のバックグラウンドには物語があります。(あらすじにも書きましたが、もと作品は方向転換でガラツとプロローグも変わってしまったみたいです。(; ; ;))

ときは現代です。丘の上に住む少女は、体が弱くあまり外には出してもらえませんでした。その女の子が広いお屋敷の敷地でつまらなそうにひとり遊びしていると、ふいに男の子に話しかけられます。男の子は褐色の肌の健康な子でした。どうやら、夏休みでおばあちゃんのうちへ帰省していたようです。

その男の子に連れられて、女の子は屋敷を抜け出し、男の子とたくさん遊びます。でも、そんな楽しい日々が続いたのは短い間でした。

女の子は男の子と遊んでいるとき、誤って道路に飛び出し交通事故で命を落としてしまいます。

男の子は自分をせめて、屋敷から連れ出した張本人として女の子の親からも責められてしまいます。

ときはたつて10年後、心に大きな傷をおいながらも男の子は高校生になっていました。そんなあるとき部屋の整理をしているとある一枚の日焼けした紙が見つかります。

「10年後の夏、約束の場所で」

そう書かれていました。少年は思い出したくもない記憶と立ち向かう決心をして、また女の子と遊んだ田舎へと足を運びます。

初めて会ったおおきな木のアーチのした。

そこにいたのは——大きくなったあの子の姿でした。

果たしてこの女の子とは？

こんな感じですよ。(だった気がします。)

歌詞はこの女の子視点です。

夏渡し

翠色に光る櫂の葉

頬をなでた暑い風の季節

鮮やかに色づく新緑のトンネルをひとり

わたしは地面にこぼれてゆれる木漏れ日を

踏みつけて暇をつぶしてた

「いつしよにあそぼう」

吹き抜ける涼しい風とともに

ふいに聞こえたその声は

夏の暑さを忘れさせた不思議な言葉

麦茶色の肌のキミはわたしの手を引いて

お日様みたいに微笑む

ふたりの小さな冒険が始まった

背中がひりひりするまで泳いだこと

ソーダバーをわけっこしたこと

ちっぽけな出来事だっってわたしのたからもの

ひだまりみたいなキミとのおもいで

ずっとずっとと忘れない

手をつないで歩いた帰り道

「また、あした」そういつてくれた

そんな暖かくてありきたりなことばは
あなたからわたしへの贈り物

夕立がぬらしたアスファルトのにおい
虹のかかる まだ青いそら
小屋みたいなバス停でふたり
雨がやんでしまつてからもずっと
たくさんお話をした

「さむくない？」

汗ばむシャツを心配そうに
そういつて私を見るまつすぐな目は
わたしの頬を熱っぽくしたキミだけの魔法

「さむくないよ。ありがとう」そういつて
わたしもキミにほほえみかける

縁側で食べたスイカ
やぶの中すりむいたひざ小僧

あなたと過ごしたその一瞬がわたしのたからもの

キミはおぼえていてくれるよね

さよならのわかれみち
にぎりあった手をほどくせつなさは
わたしからキミへのおくりもの

このまま無邪気なままでキミと夏をくりかえしたい
喧嘩だつてたくさんしたい
このまますうつと手をつないでいよう

「わたしはキミといっしょにいたい」
気の遠くなるほど青いそらのした
一緒にゆれるふたつのかげ

この二度と来ない夏の日
きつとわたしたちへのおくりもの

(後書き)

友人からはなしがあったとき、この話には幼い二人の子どもの小さなしあわせがあると思いました。

話のシノプスを伝えられないままに、ただプロローグのみを参考にして書いた私の妄想ですが、「子供の時にしか感じられなかったおぼろげな記憶」に焦点を当てて書いてみました。

歌詞の中には、自分が幼稚園とか小学生低学年とかの時に友達と遊んでいたときに感じた「たのしい。このままずっと遊んでいた。でもお母さんがおこるら…」のような感じの焦燥感をいれたつもりです。(ちょっと違うかも知れませんが)

どんなに楽しくても(もちろんくるしくても)時は移り変わっていく。夏の次は秋だね。でも、またひとめぐり。

次の夏はどんなことがまってるのかな。

いつかきつとまた――

恋だつて友情だつて、そこにある幼心にも感じた切なさをいつのまにか乗り越えてすこしづつ成長します。

会わなくなつた友人。地元にいる初恋の人。ふと窓の外を見たとき「あいつ、なにやってんのかな？」そう思うとき。

胸の中にたくさんのがらみがあったことに気がつきたいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0886ba/>

夏渡し

2012年1月2日00時48分発行